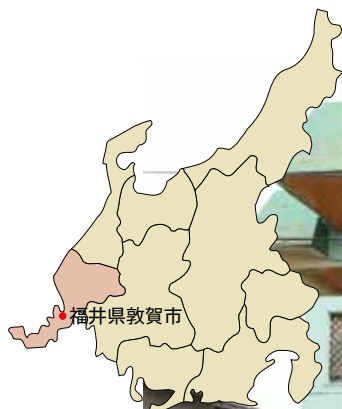


畑 有限会社

◎
一般公衆浴場業



さまざまな変わり湯で 地域住民の心をつかんできた銭湯

ゆず湯、酒粕の湯など、さまざまな変わり湯が好評で、地元住民に長く愛されてきた、明治時代創業の老舗銭湯「敦賀温泉」。銭湯の数が減少している中、敦賀市内にある2軒の銭湯とともに敦賀市に働きかけ、月に1度の無料入浴デーを実現。若い世代が集まるきっかけ作りに成功した。他にも幼稚園児の無料体験入浴を行うなど、さまざまなアイデアが敦賀の銭湯文化を支えている。

変わり湯で個性を出し、 人が集まる「場」を作る

1905年創業の歴史ある「敦賀温泉」を2003年に継いだのは三代目の山崎一美さん。同地域にある福井県公衆浴場業生活衛生同業組合敦賀支部には、かつて25軒の銭湯が所属していた。しかし、その数は年を追うごとに減っていき、今ではわずか3軒を残すのみとなっている。そんな中で山崎さんは、より多くの人たちに銭湯の良さを知ってもらおうと、さまざまな工夫を凝らしている。そのひとつが四季折々の風情を感じさせる演出だ。

冬はゆず湯や酒粕の湯、春は干した八重桜の花と葉を入れる桜の湯、夏はラベンダー湯、ヨモギ湯、菖蒲湯など、季節ごとにさまざまな風呂を楽しむことができる。

また、以前はヨモギを干す場所として活用していた銭湯の2階が空いていたため、スペースを有効利用するとともに、人が集まる「場」を作りたいという思いから、貸しダンススタジオに改装。現在はバレエ、ヒップホップ、ヨガの教室として利用されており、ダンス好きの地元の人たちが集まるようになっている。ダンスで汗を流した人が1階の銭湯に入ってから帰ることもあるという。

地域の同業者や行政と連携し 顧客層を拡大

現在の顧客層の中心は70代のシニア世代と30～40代の若い世代だ。若い世代の利用が増えたのはここ数年のことで、そのきっかけは2003年か

ら始めた毎月26日の「風呂の日」で、この日は市からの補助金で入浴料を無料にしているという。

「今は自宅にお風呂があるのが基本ですから、銭湯に入ったことのない若い方には心理的な垣根が高いんです。無料なら好奇心で来てくれる可能性もあるし、きっかけ作りにもなります」と山崎

地域の同業者や行政との連携で幅広い世代に銭湯の楽しさをPR 銭湯文化を次世代につなげる



さんは言う。

この取組みの発端は、「敦賀温泉」を含む3軒の銭湯の集まりだ。いかに銭湯文化を引き継ぎ地域に残していくかを話し合い、銭湯が地域住民の健康増進や交流の場として地域活性化にも貢献しているということを敦賀市にアピールした。そ

の結果、敦賀市から補助金が支給され、入浴無料イベントが開催できるようになったのだ。以来、13年間続けており、それが若い世代やファミリー層の顧客の増加につながっている。

入浴無料パスや無料体験入浴により地域との連携を図る

また、東日本大震災の際、300名前後の被災者の方が敦賀市へ避難し居住を開始する中で、「敦賀温泉」を含む3軒の銭湯は、1年間無料で入浴することができる「入浴無料パス」を提供した。これにより、被災者の方は3軒の銭湯に無料で入浴することが可能となった。

「市が提供した住宅の風呂には浴槽がなかったと聞きました。ストレスの溜まる避難生活の中、少しでもリラックスできる場を提供できたのであれば良かったです」と山崎さんは振り返る。「入浴無料パス」を発行することで被災者の方に喜んでもらうことができ、敦賀市を離れた被災者の方

が再び同銭湯を訪れ、「あのときは本当にありがとう」と感謝を伝えられたこともあるという。

このほか、年に1度、幼稚園児の無料体験入浴を行っている。近隣の幼稚園の子どもが、先生に引率されて体験入浴に訪れ、地域の方々との交流を通じてさまざまな体験ができると好評だという。

「何かしてもらったらありがとう、人にお湯をかけてしまったらごめんなさい。銭湯はそういう基本的なことを自然と身につける社交の場です。地域の方々とともにお風呂に入る経験自体、今の子どもたちにとっては新鮮なのです」と山崎さん。銭湯文化を次世代へつなげるためにも、幼いうちから銭湯という文化に慣れ親しんでもらうことは重要だと考えている。

創意工夫で銭湯文化を次世代へつなぐ

今後の目標のひとつは、2018年の福井国体出場で全国から集まってくる選手たちへの入浴サポートだ。

「選手の皆さんの多くは民宿に泊られますが、通常、風呂が1つしかないので不自由されることも多いと思います。広い銭湯でゆったりとお湯につかることは疲労回復にも効果的ですし、良い成績にもつながるでしょう。『福井県の温かいおもてなし』というキャッチフレーズで、選手が無料で入浴できるような仕組みを福井県に提案していま

す」と山崎さんは言う。

常にさまざまなアイデアを出して、顧客層を広げてきた敦賀温泉。いかにサービスの魅力を高め、地域の人々に伝え、次世代につなぐのかを考えてきた。

「利用者の視点に立って、きめ細かなサービスやきっかけ作りをしていく必要があります。銭湯のような生活サービスで顧客を獲得するには、利用者に寄り添いながらアイデアを考えていくことが大切です」と山崎さんは語る。

自宅に風呂があることが一般的になってしまった今日、銭湯を継続していくことは容易ではない。しかし、創意工夫次第で、新たな顧客獲得も可能なのだということを敦賀温泉の活動が示している。

● Profile

畑有限会社

代表取締役 山崎 一美 (やまざき ひとみ)

所在地 福井県敦賀市松島町1-10

創業 1905年

従業員数 2人(うちパート・アルバイト2人)



代表取締役 山崎 一美さん